東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年11月6日

預言者達

ムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、その教えを啓示という独特な方法で、預言者達を通じ、人々へ伝えられました。人間は、努力によってこの世で高い位階を獲得し、豊かさや社会的地位を得ることが出来ますが、いくら努力しても預言者になることはできません。なぜならアッラーは御心に適う者を預言者として選ぶからです[1]。

聖クルアーンに述べられていることによれば、どの民にも一人の預言者が遣わされました。過去のそれぞれ民の中には、必ず一人の警告者である預言者が存在しました。区別することなく、すべての預言者を信仰することが基本です。したがってある預言者を信じ、ある預言者を信じないということは、信仰に背くことと見なされます[2]。

親愛なるムスリムの皆様。預言者達は実直かつ正直で、信頼が厚く、また罪から遠く、高い知能を持ち、寛容な人達で、崇高なるアッラーから禁止されたことや命令をそのまま間違いなく人間に伝えます。また一方で彼らは私達と同じように飲食し、歩き、立ったり座ったりし、疲れ、結婚し子供を持ち、病気になり、この世を去ります[3]。また啓示を受けた、特別な性格を持つどの預言者も神格的な特徴を持っていません。アッラーのお許しなく他のものを益することも害することも出来ません。さらにアッラーに教えられたこと以外幽玄界のことも知りません。

兄弟姉妹の皆様。全預言者の中で、'聖ヌーフ、聖イブラーヒーム、聖ムーサ、聖イーサー、そして聖ムハンマド'はアッラーの御許において位階的に高い（**ulu'l azm**）大預言者達です。大預言者とは'どんな苦しい状態においてもその任務を適切に成し遂げる'という意味です。実は、その大預言者達は、任務を果たす過程で降り掛かった耐え難い暴力や妨害、そして迫害を忍耐によって乗り越えた人々です。

預言者達は、人々にアッラーからのメッセージを伝える間に、何度も奇跡を起こしました。奇跡とは崇高なるアッラーが不信者達を沈黙させる為に預言者達に与えた特殊な出来事です。クルアーンは預言者達に与えられた奇跡を私達に説明しています。例えば、聖イブラーヒームがバベルの独裁者ネムルートによって火の中に投じられた時、彼は火によって焼かれなかったこと、聖ムーサーの手の杖が大蛇になってフィルアウンの前で魔術師に作られ、蛇のように動き糸を呑み込んだこと、そしてムーサーが手を脇の下に入れ、出したみるとそれが白くなっていたこと、彼が杖を海にかけたら海が開いたこと、聖イーサーが泥で鳥の形を作り　それに息を吹き込むと生きかえり飛んだこと、死者を蘇らせたこと、生まれ付きの盲人を治したこと、そしてイーサーの弟子達の希望に応じて天から食卓を御下しになったことなどは、アッラーのお許しの下で成し遂げられた奇跡です。

まずクルアーンにおいて語られている預言者達の生活を読んで理解し、そのことに関して考えてみましょう。私達はこのような預言者達の物語から、そして彼らが派遣された各民族の物語からも様々な教訓を学びましょう。

---

[1] 第62章第4.節
[2] 第4章第150-151節
[3] 第3章第144節; 第13章第38節
第18章第10 節; 第25章第20節